

## やるのも やらないのも 自分次第

さいとう よしや  
齊藤 義也 さん



ユリ農家での研修2年を経て、就農4年目を迎える齊藤義也さん（35才）にお話を聞きました。

（右側）齊藤義也さん・真菜美さんご夫婦  
（左側）一緒に働く、きんご金伍和義さん・和美さんご夫婦。  
齊藤家で今年一番に開花したユリ「レクサス」と一緒に撮影させていただきました。（7月18日）

### 4年目で多くのユリを栽培

今年 は49棟のビニールハウスで12品種ほど手がけています。白い大きな花をつけるハイブリッドリリー（オリエンタル）、ユリの品種「シベリア」は当別花き生産組合の主力品目で、もちろん我が家でも栽培しています。ユリは、JA北いしかりから全国の市場（札幌から九州まで）へ出荷されています。

### 農業への転職

前職 は運送業で、トラックの運転手をしていました。その配送先が農家さんだったり、農業に携わる友人も多く、農業を見たり聞いたりする機会があり、次第に興味をもちました。農業をやりたいという相談を何軒かの農家さんにしていたのですが、弁華別でユリを栽培していた畑清さんに「一緒にやってみるか」と声をかけてもらったのが、

すべての縁の始まりでした。その時、見せてもらった畑さんのユリは大きくて立派で、とても感銘を受けました。

### 研修先へ定住就農

研修 1年目はユリの栽培について一から教わり、2年目には自分のビニールハウスを3棟建て、自分のユリも手掛けました。そして、就農（独立）して1年目に自分のビニールハウスを5棟に増やし、さらに畑さんから技術を学んでいましたが、その年に畑さんが定年で農家から手をひくという話になり、就農して2年目には畑さんの土地などを賃貸させてもらうことにしました。40棟以上のユリの栽培をすることにしたこの時期が、一番苦労しました。頼る人がいなくなったのと、自分でやらなきゃいけないというプレッシャーもあり、精神的にも肉体的にも大変でした。そんな時に妻の弟夫婦に声

をかけ、手伝ってもらうようになり、今では二家族でユリの栽培をしています。

### 農業の魅力

春先 に定植（球根の植え付け）やビニールかけなどの準備から、手入れ、花切り、出荷まですべてを自分の手でやる「ものづくり」という点が、とてもやりがいを感じます。やるのもやらないのも、自分次第です。7月中旬から3カ月ほどは朝早くから夜遅くまで忙しく、まもなくその時期がやってきます。将来は自分もつ技術を次の世代に伝えられるようになりたいです。

義也さんの奥さま、真菜美さんに農家になった頃の様子を聞いてみると「それまではレジ打ちの仕事をしていたので、農家をやると聞いた時は体力的にどうかと少し戸惑いましたがすぐに慣れました」と笑顔でお話してくれました。

（7月6日取材）